

島学区まちづくり協議会

地域の特徴と事業のこだわりポイント！

▷ 隣近所との絆が深い。いつでも誰でも普段着で参加できる事業を行います。

わくわくふれあいサロン



学区内の高齢者が一同に集まるこれまでの学区敬老会を見直し、各町で高齢者が**気楽に参加できるサロン**を令和4年度から始めました。

各町の自治会館で、健康体操をはじめ、防犯啓発グループ「ひょっこりひょうたん島」による二人羽織や、バラエティに富んだコミカルな歌や踊りなどのミニ劇場、寸劇を通して、オレオレ詐欺や振り込め詐欺防止の啓発をしています。毎回、参加者の笑顔が絶えない事業です。



ポストコロナを迎え、まち協も新しい事業を考える時期だと思っています。「やっぱり住みたい島」を目標に、老若男女みんなが喜ぶ事業を既存の枠にはまることなく実践し、みんなが心豊かに暮らせる生きがいのあるまちづくりを行います。

みんなの笑顔のために
準備を頑張っています♪



生きがい福祉部会長 大西増美さん
まち協部会担当職員 西文子さん

沖島学区まちづくり協議会

地域の特徴と事業のこだわりポイント！

▷ 淡水湖に浮かぶ唯一の有人島。
地域の存続を考えた「持続可能なまちづくり」を目指します。

「おきしま資料館」の再開



平成30年の台風の影響で閉館していた資料館。自治会主導でまち協も協力し、再開に向けて取り組みました。

沖島の歴史や習慣、漁業など、沖島の文化を継承する施設として今年4月に再開しました。



山の整備事業



市内の小学4年生が森林学習「やまのこ」で登るケンケン山は、緑の募金を活用して**みんなで整備**しています。島外から登山に来る人も増えています。



島民と小学生、沖島関係者の皆さん

防災訓練、福祉、清掃活動、運動会などの事業を、関係者みんなが顔を合わせ、声を掛け合い取り組む姿勢が、超高齢社会の沖島にとって大事なことだと考えています。また、沖島にUターンする後継者や若い世代の移住者も増えてきており、地域の力になっています。沖島の将来のため、みんなで協力して事業を続けていきます。

Q まちづくり協議会 ってどんなところ？

A

地域の特徴を生かした住みよいまちをつくらせているところです。

第1回：八幡・島・沖島学区編

まちづくり協議会（略称：まち協）は、地域に住む人や団体などからつくられている組織で、ほぼ小学校区ごとに分けられており、市内に11団体あります。各学区コミュニティセンターを拠点に、体育祭や文化祭などのイベント、防犯・防災活動、健康づくり、人権啓発、子育てなど、さまざまな事業を行っています。

これらまち協の活動のなかで、それぞれの地域の特徴や「イチオシ」事業を4回に分けて紹介します。第1回目の今回は、八幡・島・沖島学区のまちづくり協議会を紹介します。

問 まちづくり協働課 TEL (36)5552・FAX (36)5553

八幡学区まちづくり協議会

地域の特徴と事業のこだわりポイント！

▷ 歴史・文化の息づくまち。自治会との両輪で新たな出会いと交流を育みます。

八幡堀一斉清掃



自治会・企業・八幡堀を守る会・北之庄沢を守る会などが協力して、日杉町から北之庄町までの約2500mを清掃しています。憩いの場・観光スポットとしてにぎわいを見せる八幡堀一帯で、気持ちよく人々を迎えるための活動です。

みまもり市



高齢者の見守り活動の一環として、年に6回、**食品や日用品をリヤカーや軽トラに積んで地域をまわり**、安価で販売しています。旬の野菜や果物が人気で、利用者から「次はいつ来てくれるの？」と声をかけられることも。

気軽にコミセンへ遊びに来てね！



岡村益夫まち協会長（右上）と職員の方

まち協発足時に実施したアンケート結果をもとに、「安全で安心して暮らせるまち」「福祉の充実したまち」「自然環境を守り育てるまち」を基本のテーマに据えて活動しています。上記の事業のほかに、スタンプを集めるとプレゼントと交換できるウォーキング事業などが好評です。さまざまな取り組みを、これからも自治会と協力しながら進めていきます。